

年頭の ごあいさつ

2007



宇城市長
阿曾田 清

明けましておめでとうございます。ご家族おそろいで、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。私も市長として2回目の正月を、新たな気持ちで迎えております。

1年目は、市の財務諸表（バランスシート）、総合計画（フロンティアシティ）、3K政策（教育・環境・健康）に着手し、特に旧町の融和と連携を図ることに意を用いてまいりました。

昨年は、私の公約である環境保全・健康立市・生活安定・安心安全・教育文化という市民の皆さまの暮らしを守ることに重点を置いて政策を実施し、加えて生活の質の向上を図るために、企業誘致や産業の振興に力を注いでまいりました。財政的に厳しい折ではありますが、今後とも勇気を持って可能性という種をまくことに挑戦してまいります。努力する地域とそうでない地域では、将来の発展に大きな差が付くと確信しております。また、宇城市は日本経済新聞による全国行政サービスランキングでは、県でトップ、九州では8位でありました。さらに宇城市が生活したい、行ってみたい所になるために、市のブランドを上げる必要があります。話題づくりや魅力づくりに取り組んでまいります。

さて、皆さまにぜひご理解とご協力を賜りたいことは、行政改革の「本丸」というべき組織機構の再編と下水道事業の公会計への移行であります。組織機構は、行政サービスを提供する手段であり、時に応じ組織を常に見直していく必要があります。少ない職員で細かな行政サービスの提供と、市民の皆さまに満足していただけるよう、柔軟かつ簡素で効率的な組織体制を作る必要があります。また、行政区の見直しを同時に進めたいと考えています。

さらに、旧町で整備された施設は222カ所あり、市の財政に大きな負担となっております。運営管理を基本的に、民間の資本やノウハウを最大限に活用するPFIや民営化・指定管理者制度を導入することにより、市民サービスの向上や大幅なコスト削減を図ることができそうです。

次に下水道事業の公営企業への移行についてであります。下水道事業は独立採算制で運営するものと規定されています。その運営に要する経費は、料金収入をもって賄うこととされています。しかし、赤字補てんに伴う繰入金により、市の財政を圧迫している要因となっております。本市の普及率はまだ32・3%であり、普及率向上に向けた整備を進めていく上でも、公営企業への移行が必要であります。今後、無駄・むらを引き続き精査し、なお一層の意識改革を図りながら、めりはりの利いた行政を目指し、市民の皆さまにご満足いただけるよう努めてまいり所存であります。

今年の干支「いのしし」同様、猪突猛進で今年も頑張つてまいります。市民の皆さまにとりまして素晴らしい年になりますようお祈り申し上げます。



宇城市議会議長
末松 立身

新年あけましておめでとうございます。市民の皆さまには、希望に満ちた初春を迎えられましたことと心からお喜び申し上げます。

顧みますと昨年は、地元宇城市の巻誠一郎選手がサッカー競技で世界に羽ばたき国内を沸かせてくれました。そしてまた「ドーハ・アジア大会」柔道男子では、秋本啓之選手が見事銅メダルを獲得されるなどスポーツにおいて大活躍の年でありました。

宇城市も、誕生して2年を迎えておりますが、合併直後に掲げられた「宇城市総合計画」に基づき、順調な歩みが続けておりますことは市民各位のご理解とご協力の賜物であり厚くお礼を申し上げます。

世情では景気低迷や各種産業間の不均質と雇用不安、高齢社会への先行き不安などがありますが、市民の皆さまには極めて果敢にスポーツや文化面においてさまざまな活動がなされ、生涯学習の域としても充実をなし、ご同慶に感じているところでございます。議会としましては、進行するグローバル化と並行して道州制の話題が現実味を帯びて報道されるなど、なお気が抜けない状況の中、いま行政の改革等を含めた市政の充実を目指し、執行部と切磋琢磨しながら目標に向かって邁進しているところであります。

ともあれ山と海に囲まれた豊かな自然と、九州の中央部に位置し交通の要衝としても恵まれた好条件の地は、市民にとってはかけがえのない財産であり、未来を託せる夢の宝庫であります。6万4000人が暮らす街として胎動を始めた宇城市というキャンパスに「安心と安定」に併せて「未来への躍動」があふれるような市民合作の絵が描きたい、そんな初夢を見たいです。

本年も議会に対しましてご理解とご協力をお願いいたします。皆さまのさらなるご多幸とご健勝を祈念申し上げます。

※ 2月の市長談話室は2日（金）の予定です。参加ご希望の方は、広報統計課（☎32-1111）へ1月19日（金）までにお申し込みください。